

アンケートデータ分析

ここではデータを単純分析したものを解説しています。
集計データの詳細は29ページ以降を参照して下さい。

各設問分析

問 1. 回答者の性別

男性 307 人、女性 103 人、合計 410 人の回答がありました。

回答率は男性 38.4%、女性 51.5%で女性の反応の高さが目立っています。

問 2. 回答者の年代

「昭和 22 年 4 月以降」「23 年生まれ」「24 年生まれ」「25 年 3 月まで」の 4 つの年代の回答があります。男性で 1 番多い回答は「24 年生まれ」の 124 人 (40.4%)、女性で 1 番多い回答は「昭和 23 年生まれ」の 38 人(36.9%)でした。

問 3. 回答者の家族構成

男女ともに 1 位「二世帯同居（子と同居）」、2 位「二世帯同居（親と同居）」、3 位「三世帯同居」となっています。1 位の「子との同居」は男性は 51.1%、女性は 41.7%でした。

問 4. 居住年数

男女ともに「10 年～30 年未満」が 1 位で、男性 55.7%、女性 47.6%でした。40 年前に入間市が誕生した頃の人口が約 5 万人だったことを考えると、大半の方はそれ以降に転居してきたことがわかります。

問 5. 職業の内訳

職業構成は男性と女性で大きく異なっています。男性は圧倒的に「会社員・公務員」の比率が高く、71.0%を締めています。次が「自営業」の 10.4%、3 位が「会社役員」の 7.8%でした。女性は 1 位が「家事専従」の 43.7%、次いで「パート・アルバイト」の 31.1%、3 位が「会社員・公務員」の 9.7%でした。

問 6. 勤務先所在地

勤務先も職業同様男女で大きく異なっています。男性は 1 位が「東京（23 区内）」の 29.8%、2 位が「市外の県内」で 23.9%、3 位が「東京（23 区外）」で 18.2%でした。女性は 1 位が「市内」の 51.0%、2 位が「市外の県外」で 27.5%、3 位が「自宅」の 11.8%でした。男性は東京、女性は地元が主流の

ようです。

問 7. 日ごろ付き合いの多い人

男性の1位は「勤務先の同僚仲間」、2位は「古くからの友人」、3位は「家族親戚」となっており、「地域住民」が4位でした。女性は1位が「地域の住民」ですが4位の「家族親戚」までそれぞれの回答率が20%台であり差が無く、まんべんなく付き合いがあることがわかります。反面、男性は日ごろの付き合いでも職場中心であることがわかります。

問 8. 近隣との付き合い方

男性は「挨拶程度」がトップなのに対し、女性は「たまに立ち話」がトップで、「問7の日ごろの付き合いの多い人」と同様近所付き合いにも男女の違いが出ています。やはり男性は職場中心で地域や近所の付き合いが少ないことがわかります。

問 9. 自治会加入状況

男女ともにほとんどが「加入している」と回答しています。「加入していない」は約10%でひじょうに少なくなっています。

問 10. 自治会との関わり度合い

男女ともに1位は「掃除当番だけ参加」、2位が「時々参加している」です。「ほとんど参加しない」が、男性の12.1%に対し女性は1.1%と少なく違いが出ています。

問 11. 生活の変化での関心事

男女ともに1位が「収入や経済」、2位が「健康維持管理」、3位が「精神的な張りや生きがい」と同じ順位でした。女性の場合は、1位と2位の差があまりないのに対し、男性は圧倒的に「収入や経済」が多くを占めています。定年後も関心事は「お金のこと」がトップのようです。

問 12. 生活設計手段

ここでは今後の生活資金について問いおり、男女ともに1位から全て同順位でした。しかし、女性は「年金収入」が圧倒的なのに対し、男性は1位の「年金収入」と2位の「就労による収入」の差は8%弱と少なくなっています。

問 13. 生活設計

今後の生活設計に関しては、男性のトップが「今後考えていく」に対して、女性

は「前向きに考えている」がトップになっています。しかしどちらも「具体的計画を持っている」人は男性12.1%女性6.8%と少ない回答です。

問14. これからの生活重視したい項目

これからの生活は、男女ともに1位が「趣味ライフワーク」、2位が「家庭生活」、3位が「仕事・事業」と同じ順位でした。男性が2位と3位の「家庭生活」と「仕事・事業」がほぼ同じ水準なのに対し、女性は順位が同じでも2位と3位の差が大きくなっています。

「問11の生活の変化面での関心事」では、「収入や経済」が圧倒的でしたが、この問14の重視したい項目となると「趣味ライフワーク」がトップになります。現実と希望の差が現れているようです。

問15. 就労希望年齢

何歳まで仕事をしたいですかの問いに対して、男女ともに1位が「60歳から65歳未満」でした。2位は男性が「65歳から70歳未満」に対して、女性は「仕事したいとは思わない」が2位でした。「仕事をしたいとは思わない」に回答した人は男性の9.4%に対し女性は34.0%とかなり違いが出ています。

問16. 希望職業内容

仕事の内容については男女とも1位が「現在の仕事」を選んでおり、変化しないことを望んでいます。男性の2位は「どんな仕事でもよい」が15.6%となっている。また「社会貢献度の高い仕事」は、男性6.8%女性2.9%と低い回答でした。

問17. 希望収入形態

今後の収入のかたちは、男性が「常勤の安定収入」がトップなのに対し、女性は「無回答」がトップになり、「仕事をしたくない」と考えていると思われます。これは問15の「仕事したくない」34%と一致します。

問18. 求職方法

仕事を探す方法は無回答を除くと、男性は1位が「職安等の紹介」、2位が「その他」、3位が「求人情報から直接申し込む」です。女性は1位が「職安等の紹介」、2位が「求人情報から直接申し込む」、3位が「人材派遣など事業所に登録」となっており、男女ともに「職安等の紹介」がトップでした。しかし女性の「無回答」が41.7%、男性の「その他」が22.1%と、この設問にない方法や職探しに対する考えがあるようです。

問 19. シルバー人材センター認知度

「問 18 のどのように職を探そうと考えていますか」で3の「人材派遣など事業所に登録」を選んだ男性33人、女性11人に質問しています。

この回答をした人の男性63.6%、女性72.7%がシルバー人材センターのことを「知っている」と回答しています。

問 20. シルバー人材センター利用したい度

男女ともにトップは「わからない」でした。「利用しない」と回答した人は、男性8.5%、女性1.9%と低い回答なので、シルバー人材センターに関する情報が不足しているようです。

問 21. 起業についての市の支援について

男女ともにトップ3は「補助金の創設」「相談窓口の設置」「企業の情報提供」でどれも20%台でほぼ同水準の回答でした。

問 22. 市民活動参加意欲

男女ともに1位が参加意向が「ある」と回答しています。2位が「わからない」、3位が「ない」でした。ここでも「わからない」が男性27.0%、女性20.4%「と高く、まだ決めていない人が多いようです。

問 23. 取り組んでみたい市民活動分野

問 22 で「ある」に回答した男性121人、女性34人に質問しています。

男性は1位が「環境保全活動」、2位が「生活環境改善活動」、3位が「まちづくり活動」でした。女性は1位が「介護活動」、2位が「環境保全活動」、3位が同数で3つ有り「子育て支援活動」「生活環境改善活動」「まちづくり活動」でした。

男性は「環境保全」、女性は「介護活動」とかなり違いが出ています。

問 24. 市民活動促進のための市の支援

男性は1位が「情報の提供」、2位が「相談窓口の設置」、3位が「講習会の開催」でした。女性は1位が「情報提供」、2位が「講習会の開催」、3位が「補助金の創設」でした。

問 25. これから活動したいライフワーク分野

男女とも1位が「旅行」、2位が「自然に親しむ活動」、3位が「スポーツ」と順位も比率もほぼ同じ傾向の回答でした。やはり「旅行」や「自然に親しむ活動」

の人気は高いようです。

問 2 6. 施設利用実績

最も利用実績の多い施設は、男性は1位が「図書館」、2位が「市民会館」、3位が「公民館」でした。女性は1位が「公民館」、2位が「図書館」、3位が「市民会館」でした。

問 2 7. 今後参加したい生涯学習分野

男性は1位が「図書館」、2位が「各種スポーツ」、3位が「大学の公開講座」でした。女性は1位が「公民館のサークル活動」、2位が「図書館」、3位が「公民館の学級講座」でした。問 2 6 の施設の利用実績同様、男女で参加したい分野で違いがでています。

問 2 8. 施設情報の入手ルート

施設の情報に関しては、男性の1位が「市報などの配布物」、2位が「回覧板」、3位が「市の HP」となっています。女性は1位が「市報などの配布物」、2位が「回覧板」、3位が「知人・友人」となっています。

問 2 9. 高齢化社会へ向けた施策について

今後の施策としては、男性は1位が同数で「生涯学習の充実」と「生活設計の学習や自己啓発」、3位が「コミュニティ活動事業」でした。女性は1位が健康増進による疾病予防、2位が「生活設計の学習や自己啓発」、3位が「生涯学習環境の充実」でした。